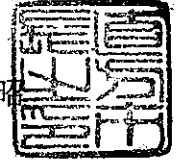




直 国 第 8 号
平成19年4月13日

国土交通省道路局長 様

直方市長 向野 敏昭



中期的な計画の作成にあたっての意見の提出について（回答）

平成19年4月2日付貴第114号で依頼のあった標記の件について、別紙
のとおり提出いたします。

意見書

直方市は福岡県の北部ほぼ中央に位置し、北東部は北九州市、南東部は福智町・田川市、南部は小竹町・飯塚市、西部は宮若市、北西部は鞍手町と隣接している。その中において直方市における道路網は南北においての連絡性は良好であるが、東西における連絡性は未だ良好とは言えない。

筑豊地域においては、福岡・北九州都市圏との交流・連携の促進、交通軸強化、居住環境整備、新産業展開による地域ポテンシャルの向上に努め、活力ある地域としての展開を目指すため、福北豊・トライアングル構想を推し進めることが急がれる。特に北部九州における自動車産業の集積は目覚しく年間150万台とも言える増産体制を目指しており、それらを後押しする為にもトラフィック機能の強化は急務と言える。

直方市内における道路政策・整備・管理において重点化を進める上で特に優先度の高い政策として、都市計画道路環状網・放射網の早期完了、直方駅周辺の都市計画事業(中心市街地活性化に向けた交通結節・区画整理事業・及びそれらに関連する今後見込める事業)の早期完了及び推進、都市計画事業(県事業の勘六橋架け替え)に関わる事業の早期完了等があげられる。

又効率化を徹底的に進める上で重視すべきこととして、都市計画道路を検証し、カルテ作成に伴い廃止も含め見直しを行い、併せて事業推進・維持管理におけるコスト縮減は徹底する必要がある。

その他道路政策や道路の整備・管理全般として、特に一般道路において、経年劣化が進み維持・管理には大変苦慮しており、旧来市街地(密集住宅)の狭隘な生活道路(防災・防振・緊急)の避難経路の確保・山間部における未整備道路の整備率向上等がいえる。しかしながら事業採択基準・メニューの適合が厳しい事、補助率・交付金が減少傾向にあること等、市町村として道路行政がたちゆかない現状にあり、今後国・県におかれ支援策を検討される事を強く要望するものです。

今後、少子高齢化が進行するなかで、地方の人口減少は歯止めがきかず、主要都市との格差は益々増大していくことになる。このことは、地方が更に疲弊し、今まで地方が担っていた国土の保全機能そのものを壊してしまうことにもつながる。単に費用対便益のみの比較論による道路政策では、国土の均等ある発展は望めない。

このような状況の中で、「真に必要な道路」として、地域の自立を促すための道路や、地域振興につながる道路の整備を特に配慮願いたい。